

京都市台北情報拠点レポート(2018年10月・11月分)

1 統計

○訪日旅行者数(台湾)

- ・2018年10月 379,600人(2017年10月 421,094人)(対前年比-9.9%)
- ・2018年11月 351,900人(2017年11月 363,178人)(対前年比-3.1%)

※出典「日本政府観光局(JNTO)」

○京都市内39ホテル対象宿泊実人数(台湾)

- ・2018年10月 8,301人(2017年10月 14,660人)(対前年比-45.3%)
- ・2018年11月 15,020人(2017年11月 19,706人)(対前年比-28.4%)

※出典 京都市観光協会・京都文化交流コンベンションビューロー「外国人客宿泊状況調査」 ※対前年比は総営業部屋数の差異を補正反映

2 市場動向

〔観光市場全体動向〕

台湾観光局の統計によると、2017年、台湾2,300万人のうち、出国者数は1,500万人を超え、観光出費は7,500億台湾ドルにも上ることが分かった。台湾旅行市場に向けて、台湾観光協会が主催する台湾最大の台北国際旅行博(ITF)2018は今年の11月23日から26日の間に、初めての会場、台北南港展覽館で賑やかに開催された。世界60か国と地域、計1,700ブースの共同出展、来場者数が37万人を突破し、去年より2.7%増加、過去最高記録を更新した。日程が台湾の市長(県知事)議員選挙と重複したことや会場が例年の会場より遠いなどの心配があり、旅行会社や航空会社が優待価格を提供した。来年は2019年11月8日から11日にかけて、台北南港展覽館で行われる。

国内だけではなく、世界からの注目を浴びた、台中市政府が主催する、台中フローラ世界博覧会(台中)は、2018年11月3日の開園初日の来場者数が5万人を突破した。来年4月24日までの期間中には累計800万人の来場が見込まれ、消費規模は450億台湾元(約1,658億円)以上に達すると推計されている。また、12月12日の三井アウトレットパーク台中港開業に伴い、台湾国内の旅行者数も期待されている。

台湾の南向政策に応じて、航空会社などは直行便を増やし、旅行の移動時間の減少や料金も抑えて、旅行者への呼びかけを強めている。ブルネイやフィリピンとの間でも直行便が就航している。(例: フィリピンからの台湾訪問客数は例年増加して、2016年の231,801人から2017年は236,597人になり、2.07%の成長、2018年1~9月は去年と比べて、3.97%の成長となった。)2019年も台湾市場に向け、多元化とテーマ商品を中心にPRする。客層は21~49歳、団体だけでは

なく、FITも増えている。エバー航空の毎日就航、タイガーエア台湾は12月1日からセブへの直行便就航、フィリピン航空は毎週17便のマニラ直行など、期待されている。

台湾の旅行者にとってもう1つ新たな旅行商品の購入方法が現れた。台湾人口2,300万人のうち、2,100万が利用するLINEからの発表で、LINEトラベルがライオントラベル、Agoda、KKday、Tripressoと連携して、11月28日にスタート。ここで95社の航空会社、世界984都市のルート、世界10万宿泊施設から選択、1回で30社以上の有名な旅行会社の団体商品を見比べることが可能、おすすめの観光地紹介、モデルコース、友達と一緒にサイトで行程を組むなど、便利な機能がたくさん用意されている。台湾の旅行市場にどのような影響がもたらされるか楽しみである。

〔訪日市場動向〕

今年台北国際旅行博(ITF)は台北南港展覽館で開催された。過去日本のブースは1階と2階に分かれていたが、今年は会場が以前より広いため、日本エリアが集中して、旅行者が情報集めるのが容易になった。日本政府観光局(JNTO)が発表した訪日外国人旅行客の統計によると、9月に日本を訪れた台湾人は延べ23万人で、1月からの合計が368万9864人と分かった。今年からシーズンチャーター便及び新たなルート出航が増加、日本旅行のリピーターは何回も日本を訪れるので、ITFのPR機会を狙って、今年の出展数は日本が1位で165ブースであった。

5年連続世界で最も安全な航空会社20社中の1つに選ばれたエバー航空も11月26日に、桃園国際空港(桃園市)と中部国際空港(愛知県)を結ぶ定期便を来年6月6日から運航すると発表した。日本路線の拡大に意欲を示すエバー航空は、来年下期に桃園-青森(青森県)、桃園-松山(愛媛県)の2路線を開設するほか、既存の東京(成田)、大阪(関空)、沖縄、仙台路線でも大型機の投入や増便などで輸送力増強を目指す。日本路線は現在、東京、大阪、札幌、函館、仙台、小松、福岡、沖縄の9空港に毎週計122便を運航している。来年これに中部、松山、青森が加われば毎週計146便となり、日本路線全体の座席数は約1割増加する見通し。

3年1度に開催される瀬戸内国際芸術祭は来年も予定通り開催される予定で、春・夏・秋それぞれの会期に分ける。台湾でもセミナーが開催され、FITで作品を楽しめる方法だけではなく、ホームページにて2019年の新規作品を中心に鑑賞しながら、チャーター船で島々を巡るオフィシャルツアーがあり、島巡りを存分に味わい、より深く芸術祭の魅力を感じられるプランも用意される。

〔訪日台湾旅客数推移〕

訪日台湾旅客数推移		
	JNTO 数値	台湾交通部観光局数値
	成長率(%)	成長率(%)
2018年9月	329,100	334,670
	-5.4%	-3.48%
2018年10月	379,600	385,562
	-9.9%	-8.73%
JNTO: Japan National Tourism Organization		
交通部観光局: Tourism Bureau, M.O.T.C. Republic of China		

〔関空の定期便の動向〕

関空定期便利用状況 2018年9月					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	141	40,061	31,592	78.9
	エバー	126	28,472	22,273	78.2
	キャセイ	28	7,964	4,858	61.0
	ジェットスター	46	8,280	6,946	83.9
	フィリピン	24	4,776	3,125	65.4
	タイガーエア台湾	72	12,960	9,745	75.2
	JAL	64	11,572	7,895	68.2
	ピーチ	150	27,000	22,758	84.3
	バニラエア	29	5,220	4,283	82.0
	スクート・タイガーエア	22	7,480	5,140	68.7
合計		702	153,785	118,615	77.1
関空定期便利用状況 2018年10月					
路線	航空会社	便数(回)	座席総数(席)	利用者数(人)	席利用率(%)
大阪	チャイナ	345	91,611	70,135	76.6
	ジェットスター・ジャパン	296	70,788	55,606	78.6
	エバー	62	17,806	13,732	77.1
	キャセイ	96	17,280	14,489	83.8
	ジェットスター	64	12,736	9,373	73.6
	フィリピン	152	27,360	20,106	73.5
	タイガーエア台湾	127	22,194	18,640	84.0
	JAL	182	32,760	29,361	89.6
	ピーチ	61	10,980	9,130	83.2
	バニラエア	36	12,240	8,701	71.1
	スクート・タイガーエア	345	91,611	70,135	76.6
合計		1,421	315,755	249,273	78.9